

## 認定介護福祉士のねらい

1. 生活を支える専門職としての介護福祉士の資質を高め、

①利用者のQOLの向上

②介護と医療の連携強化と適切な役割分担の促進

③地域包括ケアの推進 など

介護サービスの高度化に対する社会的な要請に応える。

2. 介護の根拠を言語化して他職種に説明し共有したり、他職種からの情報や助言の内容を適切に介護職チーム内で共有することで、他職種との連携内容をより適切に介護サービスに反映することに寄与する

3. 介護福祉士の資格取得後の継続的かつ広がりを持った現任研修の受講の促進と資質の向上を図る。つまり、介護福祉士資格取得後も介護業界で努力し続け、継続的に自己研鑽する拠り所となる。

4. 介護福祉士の資格取得後のキャリアパスの形成。

# 認定介護福祉士の効果

## サービスの質の向上

- ・より専門的知識・技術をもった介護サービス提供
- ・他職種との連携内容をより適切にサービスに反映
- ・介護職への指導によって、介護サービスの質の向上
- ・認定介護福祉士の活躍をもって、介護職のモチベーションアップ

利用者の  
QOL向上

## 効果的・効率的な運用

- ・介護と看護、介護とリハ等の連携が促進・強化
- ・効率的な介護人材活用
- ・サービス管理ツール等の開発・改良

介護人材  
不足の解消

## 介護サービスにおける連携

- ・介護と医療等の事業所間の連携・協働
- 医療の必要性が高くても、早期に退院し、施設や在宅で生活できる
- 重度の認知症となっても地域生活が継続できる
- ・地域における介護力の向上

地域包括ケア  
の推進

社会的評価獲得

配置基準への  
位置づけ

介護報酬への  
位置づけ

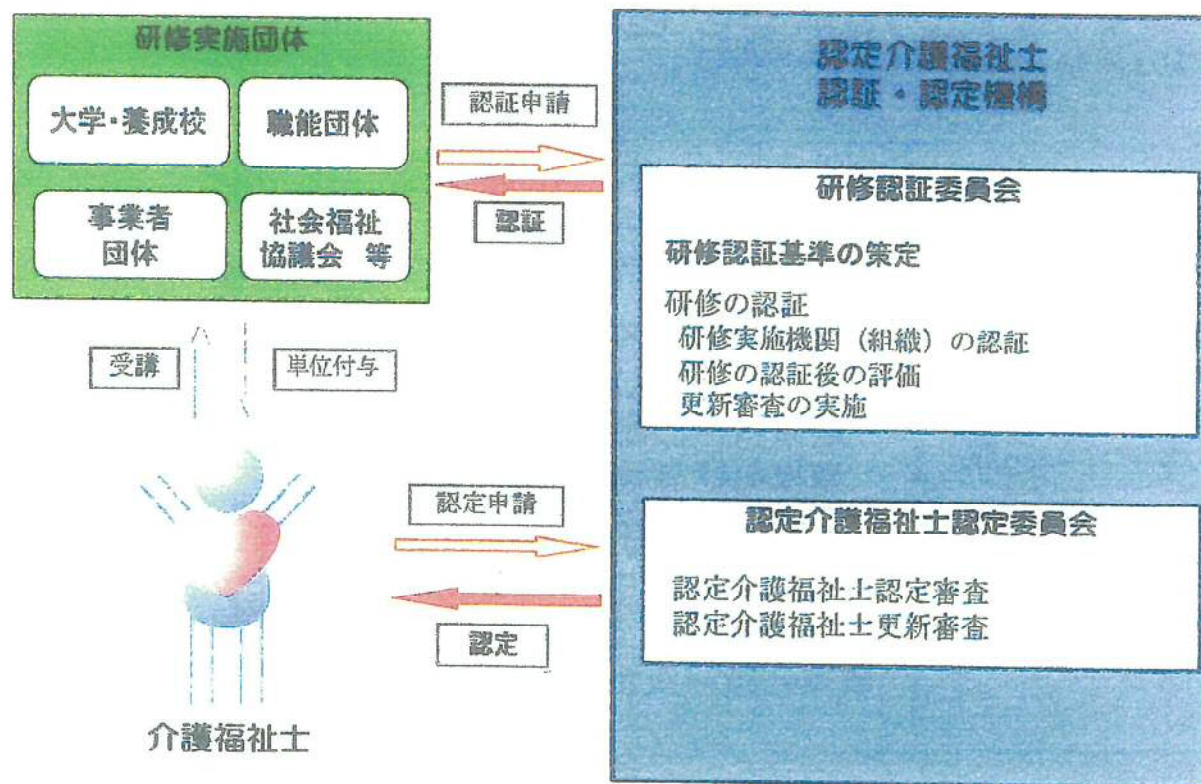
# 認定介護福祉士養成事業運営のスキーム概要

## ■認定介護福祉士認証・認定機構の創設

公平・公正に認証・認定を実施する第三者組織として、一般社団法人認定介護福祉士認証・認定機構を創設する。

## ■認証・認定スキームの概要

- ①認定介護福祉士認証・認定機構が研修実施団体より研修の認証申請を受け、研修認証基準に従って認証行為を行う。
- ②研修実施団体が、認定介護福祉士認証・認定機構に認証された研修を修了した受講者に単位付与を行う。
- ③受講生が、研修実施団体より与えられた単位をもって、認定介護福祉士認証・認定機構に認定申請を行う。認定介護福祉士認証・認定機構は、あらかじめ定められた基準に沿って認定行為を行う。



## 認定介護福祉士 認証・認定機構の構成

会員(社員)は、大学・養成校、事業者団体、社会福祉協議会、職能団体、また、機構組織の中立性・公平性を担保できる学識経験者等の個人により構成する。

認定介護福祉士認証・認定機構の機能として、カリキュラムの構築・認証規程等の作成および認定介護福祉士養成研修の認証、ならびに認定介護福祉士の認定を実施する。

カリキュラム構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの構築</li> <li>・認証規程等の作成</li> </ul>
認定介護福祉士養成研修の認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の認証の実施</li> <li>  研修実施機関(組織)の認証</li> <li>  研修科目の認証</li> <li>  研修の認証後(実施状況)の評価</li> <li>  研修の更新審査の実施</li> </ul>
認定介護福祉士の認定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定介護福祉士認定審査の実施</li> <li>・認定介護福祉士更新審査の実施</li> </ul>

